

石川県の大学見学報告

先日、大学コンソーシアム石川主催による石川県の大学見学・説明会に招待され、行ってきました。なぜ石川県が静岡県の教員を招待するのか、と思うかもしれませんが、いろいろ調べてみると、石川県の大学が県外の学生を呼び込む事情が見えてきました。実は、石川県は大学の多い県で、自ら「学都」と称しています。人口10万人に対する大学の数は1.26校(2023年度 以下同)で、全国第2位です。ちなみに1位は京都府の1.34校でした。なお、静岡県は0.39校で、全国第40位、つまり静岡県は大学の少ない県なのです。

このデータから、石川県は人口に対して大学が多いため、県外から進学してくる学生が多いということが推測できますね。ちょっと古い(H29)データではあるのですが、文部科学省が作成した「大学進学時の都道府県別流入/流出者数」という資料を見てみると、流入が超過している都道府県は「東京都・京都府・大阪府・神奈川県・愛知県・福岡県・宮城県・石川県・滋賀県・岡山県」の10都道府県しかありません。ここに入る石川県はやはり学生を呼び込む県だということがわかります。一方、静岡県は、大学進学時の流出超過数が全国1位でした。つまり、静岡県は高校を卒業して県外に進学する人の数が日本で一番多い、ということなのです(実際には流出一流入の差)。

単純に比較はできませんが、静岡県の場合は、関東圏・中京圏・関西圏にほど近く、進学はそちらへ、という傾向があるのに対し、石川県や宮城県、福岡県、岡山県などは、周辺県の高卒生が進学しに来る傾向がある、ということなのだろうと考えられます。例えば、石川県のお隣の富山県では、富山大学以外で小学校の免許が取得できる大学は1つしかありませんし、管理栄養士や、理学療法士の資格を取れる大学はありません。ですので、富山県の人々が石川県に進学しがちだ、ということは容易に想像ができますね。福井県も同じような感じです。

ここまで調べてみると、石川県が「学都」とうたっているのがよくわかります。もちろん、静岡県からだやや距離があり、「わざわざ石川県に進学しなくても…」と思う人は多いでしょう。ですが、本校でも毎年数名は金沢大学を受験・進学していますし、西の芸術大学の雄・金沢美術工芸大学や、学生の面倒見が良い大学ランキング第1位でおなじみの金沢工業大学なども、数年に数名程度は受験・進学している人がおり、全く縁がないわけではありません。

今回は、金城大学(愛知県の金城学院大学とは別)、金沢星稜大学、そして金沢美術工芸大学を見学させていただきました。金城大学は何となく浜松学院大学っぽいな~とか、金沢星稜大学は愛知大学っぽいな~とか、地方私立大学らしさを感じたのですが、全く次元が違ったのが、金沢美術工芸大学でした。ここは、数少ない美術系の国立大学として、東京芸術大学に次ぐ地位にある大学です。数年前に移転し、とてもきれいなキャンパスでした。芸術系の大学ということ、ご近所にも静岡文化芸術大学のデザイン学部があり、実際こちらも見学してよかったのですが、どう見積もってもその数倍の規模感がありました。なにしろ、大学内に美術館・展示コーナーがあったり、木工・金属加工・陶芸・漆器・3Dプリンタ・etc…の工房があり、すべての学科の学生がそこを使えるようになっていました。ちょっとでも造形に興味があるなら興奮必至です。全学科に実技試験があり、一般の受験生にはハードルが高いですが、芸術系を志望する人には全力でおすすめできます。お隣の石川県立図書館も、全国トップクラスの図書館でした(おすすめ)。

他にも、公立小松大学(ここは機械メーカーのコマツのお膝元で、工学系、特に建築機械系に強い)や、石川県立大学(農学系)、北陸大学(私立薬学部の老舗)など各大学の担当の方の話も聞いてきました。

最後に、金沢大学についてです。金沢大学はやはり北陸地方の核となる、ほぼ全学部の揃っている国立総合大学です。北陸新幹線により、関東方面へのアクセスが良くなったこともメリットです。特に注目すべきは入試制度です。学部を問わない「文系一括」「理系一括」という入試があり、大学で何をしようか迷っている人には超おすすめです。また、一方で「KUGS 入試」というものがあります。こちらは、高校在籍時に大学の講義などを受講することが受験の条件となる入試で、あらかじめ「こういうことを勉強したい」という計画をたてて受験するものです。この受験資格の講義は、高校1年生から受講できますし、受講したからといって、受験しなければならぬものではありません。ですので、高校1・2年生であれば、一度どんな制度なのか調べてみることをおすすめします。

信州大学の自然科学系学部説明会の報告

先日、信州大学の自然科学系学部説明会に参加しました。信州大学には**理学部・工学部・農学部・繊維学部**と4つ(医学部・教育学部も数学・理科もありますが)の自然科学系の学部があり、合同でその特徴や違いを紹介するという説明会を毎年実施しています。これはとてもよい企画で、他大学もやればいいのに、と思ったりします。特に信州大学は、**日本唯一の繊維学部**があるのに、なかなか内容が知られていないのが残念です。

今回は、説明会の内容を島崎が整理してみました。あくまでも、個人による作成ですので、大学の正式見解ではありません。もし、興味がわいたら、ぜひ、進路資料室にある「**研究室の研究内容**」を紹介したパンフレットを見てみてください。また、毎回言いますが、**他の大学を見る際にも、こういう視点で見る**ことができるといいですね。

信州大学自然科学系学部の比較(島崎作成)

◎=主軸・○=関連・△=弱い ※表内によくわからない言葉があったら、ぜひ調べてみてください。

	理学部	工学部	農学部	繊維学部
ルーツ 場所	旧制松本高等学校(理科系) 松本市	旧制長野工業専門学校 長野市	旧制松本農林専門学校 南箕輪村	旧制上田蚕糸専門学校 上田市
化学	◎物質の構造や反応を基礎から探究。環境化学・物質循環学など地球スケールの課題に応用。自然を活かした野外実習が特徴。	○応用化学・環境化学・材料化学を体系的に学習。エネルギー利用や資源循環にも焦点。	○環境化学・土壌・肥料など応用化学的視点を学ぶ。農場・演習林を活かした実習中心。	◎高分子・染色・有機材料など化学応用が中核。航空宇宙・医療・環境まで展開。
生物・ 生命	◎分子・細胞・生態の多層的な理解。生命現象を基礎から解き明かし、医薬・環境・進化研究に応用。1年次からの研究体験制度あり。	△バイオ・環境技術など一部で展開。基礎よりも応用重視。	◎主軸分野。植物・動物・微生物・食品の生命科学を横断し、食料・環境・社会課題に応用。	◎応用生物科学科を中心に生命工学・バイオミメティクスを研究。「柔らかいロボット」「再生医療素材」など先端的。
農学・ 環境	○物質循環学コースで地球環境や水循環を扱う。J-PEAKSの重点分野「水」研究にも関連。	○土木・環境系でインフラと自然共生の設計を学ぶ。	◎環境保全・防災・森林共生など自然と人間の関係を実践的に学ぶ。	○環境負荷の少ない繊維開発を推進。素材から持続可能性を考える研究多数。
情報	○数理・情報科学の基礎教育あり。	◎情報・AI・通信・電子を横断。	△農業のDX化など。	○スマートテキスタイル(情報繊維)などで情報技術と融合。
機械・ ロボット	△—	◎中核分野。機械・精密・ロボット・制御を統合。	△ドローンによるリモートセンシングなど。	◎機械・ロボット学科が設置。生物模倣技術(バイオミメティクス)を活かしたソフトロボットなどユニーク。
デザイン・ 材料	△—	○材料工学・構造設計で機能性素材を追究	○食品科学やバイオ素材研究も展開。	◎感性工学・デザイン工学で「美と機能の融合」を探究。